

■平成23年度公立高入試 数学の傾向と来年度の予想■

1. 総評

大問5題、小問22問と出題形式は例年通りです。構成も第一問・第二問で基本的な計算、第三問で関数、第四問では文字式の応用問題といった具合に昨年度と同様でした。ただ第四問の出題形式は異なり、平成21・22年度と続いていた「授業における先生と生徒の会話」を基にした形式ではなくなっています。

第五問は選択問題で、関数の応用問題と図形の応用問題でした。平均点は昨年度と比べるとA問題で下降(45.3点→39.4点)して、B問題で上昇(53.1点→56.9点)していることから、学力差が大きくなっていることがわかります。

2. 傾向と来年度に向けての予想・対策

数・式の計算は難易度に変化はなく例年通りです。関数は昨年度に引き続き2乗に比例する関数から、基本的な計算、放物線と交わる直線の式を求める問題、座標平面上の図形の面積に関する問題が出題されていました。最後の「座標平面上の図形の面積に関する問題」は昨年度にはないもので、関数に関する知識だけでなく、図形の性質や三平方の定理などの知識がないと求められないものでした。

作図に関しては、昨年が選択問題Aで関数のグラフ、Bで図形の作図と全体で1問でしたが、今年度は第二問で図形の作図、第五問で相似な図形の応用でした。

今年度の問題は第五問の証明以外に説明しなければいけない問題がなかった分易しく感じられます。そのかわりに第一問の問題5は、問題文を読み取る力が必要とされ、読解力がないと難しく感じられると思います。

来年度も出題形式は変わらないと考えられます。平均点から考えると選択問題Bは難化しそうです。

まずは基本的・標準的な問題で確実に得点できるようにすることが大切です。(正負の数の四則混合・文字式・方程式・因数分解・平方根・確率などの計算練習や、定義・定理をしっかりと理解すること。)

次に応用問題を解けるように応用力をつけます。(2つの数量の関係に関する問題、早さに関する問題、動点に関する問題、相似や三平方の定理の応用問題、関数と図形の融合問題などを何度も解いてパターンに慣れておきましょう。)

また、昨年度のような会話形式の問題が今度出題されないと限りませんので、「問題文を読み取る力」を確実に身につける必要があります。数学とはいえ、文章を読み取る練習をしておかなくてはなりません。

さらに、今年度は出題されなかった方程式の文章問題や、19年度以来出題されていない規則性に関する問題も、しっかり練習しておくと思えます。説明問題のために表現力(解答を作る力)をつける必要もあります。

■平成23年度公立高入試 国語の傾向と来年度の予想■

1. 総評

構成・出題形式ともに大きな変更はありませんでした。

平均点は昨年度は51.1点、今年度は53.3点といった具合に、若干易しくなったかと思えます。

大問5題構成で、第一問は小説の読解、第二問は論説文の読解、第三問は国語の知識、第四問は古文、第五問は作文でした。過去問や模試に数多く取り組み、記述問題や古文の理解に努めていたかどうかによって得点に差が出たと思われます。

2. 傾向と来年度に向けての予想・対策

◆小説の読解

登場人物の心情把握と比喻表現の解釈が中心になっています。形式は選択問題、字数を指定されて抜き出して答える問題、25～50字の記述問題です。

過去問や模試の記述問題の模範解答は必ず写し、本文と照らし合わせてどのようなことを書けばよいか身につけておきましょう。

◆論説文の読解

芸術を体験するということに関しての筆者の意見や主張を読み取ることが中心になっています。形式は選択問題、字数を指定されて抜き出して答える問題、30～50字の記述問題です。

論説文は、日常会話ではあまり使わない言葉が使われていたり、あまり縁がないテーマに関して論じられていたりするので、まずは論説文の問題に数多く取り組み、論説文に慣れておきましょう。

◆国語の知識

漢字の読み書きと文章の構成技術、慣用句に関する知識が問われています。

漢字は難しいものは出題されませんので、特に書き取りの練習に力を入れ、小学校で習った漢字を正確に書けるようにしておきましょう。ことわざ、慣用句は問題集などにまとめられているものの意味と用法に一通り目を通して、理解しましょう。文章構成技術は作文の練習で身につけましょう。

◆古文

今年度は内容理解に関する問題だけでしたが、文法知識も問われることがあります。教科書に載っている文法知識は必ず覚えておきましょう。

◆作文

相田みつをの書（短い詩）を読み、そこから感じ取ったこととそれについての自分の考えを、160～200字で書かせる問題です。過去に出題されたテーマで実際に作文を書き、必ず先生に添削指導してもらいましょう。

宮城県公立高校入試問題 国語 出典と作文テーマ一覧

年度	番号	類別	出典	作文（一部表現を変えております）
18年度	一	小説	光野 桃 「背中」	「言葉のあたたかさ」について、あなたが感じたことや考えたことを書きなさい。 (160~200字)
	二	評論	三島 次郎 「街角のエコロジー」	
19年度	一	小説	関口 尚 「空をつかむまで」	「日常生活の中で聞こえてくる音」についてあなたが感じたことや考えたことを書きなさい (160~200字)
	二	評論	茂木 健一郎 「ひらめき脳」	
20年度	一	小説	熊谷 達也 「はぐれ鷹」	「つながり」ということについて、あなたが日ごろ感じていることや考えていることを書きなさい。 (160~200字)
	二	評論	西岡 常一・小原 二郎 「法隆寺を支えた木」	
21年度	一	小説	三浦 しをん 「風が強く吹いている」	あなたが考える「未来に残したいもの」は何ですか。理由も含めて、書きなさい。 (160~200字))
	二	評論	大澤 真幸 「<愛>の不思議」	
22年度	一	小説	吉橋 通夫 「なまくら」	あなたが考える「心の豊かな人」とはどのような人ですか。そのように考える理由も含めて書きなさい。(160~200字)
	二	評論	田中 真知 「美しいをさがす旅にでよう」	
23年度	一	小説	重松 清 「かあちゃん」	相田みつをの作品から感じとったこととそれについてあなたが考えたことを書きなさい。 (160~200字)
	二	評論	佐々木 健一 「美学への招待」	

■平成23年度公立高入試 理科の傾向と来年度の予想■

1. 総評

理科において、昨年度の平均点が52.7点であったのに対して、今年度の平均点は48.0点でした。つまり難易度は昨年度より高くなっており、標準～やや難といった具合でした。

出題形式はほぼ例年同様ですが、問題数が増えて大問5題構成の問題数40題でした。

第一問の小問集には論述問題はありませんが、一問一答問題だけではなくその場で考えさせられる問題が多くありました。

第二問以降の大問は、それぞれ生物（動物）・化学（電気分解）・地学（天体）・物理（ばね、電流と磁界）の分野からの出題で、教科書に載っている実験や観察からの総合問題になっており、実験上の注意点や結果から考えられることが問われていました。

化学分野からは発展的な内容としてイオンの問題も出題されていました。

地学分野からの出題がやや考えにくいもので、手こずった受験生も多かったと思われます。

以上、出題範囲は1分野・2分野とも各学年の学習範囲から満遍なく出題されており、総合的な理解が必要です。

2. 傾向と来年度に向けての予想・対策

記号の選択問題が18問、論述問題が6問、計算問題が5問、作図問題が1問でした。

昨年度に比べると論述問題が10問から4問少なくなっていますが、作図の問題が出題されており、また選択問題も単純な暗記だけではなく、「何故そうなるのか？」を理解することやその場で図や表を読み解く力が必要な問題になっていました。

計算問題としては数値を扱う問題は5題出題されていましたが、実際はグラフの読み取り問題が多く、難問は化学分野の1題のみでした。

例年同様、易しい計算問題では確実に得点したいところです。

定期テスト対策のような暗記中心の勉強ではなく、受験対策として融合問題を数多くこなし、考える力を身につけていないと解けない問題になっています。

単純な丸暗記では対応できないような、その場で考えて判断するタイプの問題が多くなると考えられます。

一問一答式の問題集で細かい知識を暗記するよりも、表やグラフの読み取りなど、実験や観察を軸とした問題に数多く触れることが高得点獲得の鍵となります。

特に実験の注意点などをしっかりと理解しておくことが大切です。目で見ただけではなく、実際に書いて説明できるように手を動かすことを意識してください。

本年度、大問での出題が無かった日本の周りの天気や遺伝などの新傾向の問題もしっかりと問題演習して理解しておきましょう。特に気象の分野は今年度出題されなかったので来年度は狙われやすいと考えられます。

エネルギーの分野に関して、近年は新エネルギーについての報道も多く見られ、今後も出題される可能性は高いと考えられます。論述問題にも対応できるように、普段のニュースにも耳を傾けしっかりと知識を持っておきましょう。

1. 総評

例年どおり、地理・歴史・公民の各分野それぞれから、基本的な知識、資料・史料を検討・分析する力などが総合的に問われています。出題の形式については、「全大問が社会の調べ学習をしている」という設定で出されていて、資料が豊富に扱われています。受験生はこれらの資料を用いながら、問題を解くことになります。全体の構成は、第一問が地理、第二問が歴史、第三問が公民、第四問と第五問が3分野の融合問題でした。

22年度は、用語問題や選択問題に関しては基礎レベルからの出題であったのに比べて、23年度は発展的な問題が多く見られ、全体としての難易度は高くなっていました。昨年度は平均点が56.0点であったのに対して、今年度は59.1点でした。平均点からも問題の難化がうかがえます。

2. 傾向と来年度に向けての予想・対策

第四問、五問の融合問題では歴史分野からの出題が減った分、経済に関する設問が多くなっている傾向は昨年同様ですが、各設問の難易度が昨年度よりも高くなっています。

3分野とも記述問題の量は例年並みですが、歴史では政治全体の流れや用語そのものを理解していなければ解けない問題、公民では資料を見て自分のアイデアや考えを書かせる問題が多く出題されています。昨年度は、与えられた資料を読み取ればその場で答えが書けるものばかりでしたが、今年度は教科書レベルの内容がしっかり定着していないと答えられない問題が多くありました。

資料を活用する問題では、昨年度に引き続き、正確に読み取り・分析する力を問う問題が多くありましたが、正答を見つけるための計算や予備知識などは必要なく、与えられた資料を見れば正解を導き出せるものばかりなので、難易度は高くありません。

用語問題は、歴史において少し発展的な内容が出題されていましたが、教科書の内容が定着していれば答えられるものがほとんどでした。

来年度も、各分野の用語を問う暗記問題以上に、総合力を問う問題が多く出題されるものと考えられます。しかしながら、歴史分野からの出題や記述問題の難易度は高くなると考えて、十分に対策をしておきましょう。普段からニュースや新聞を読み、世の中の時事に関心を持ち、それらに対する自分の考えをまとめておくということも大切です。

また、今年度は地図の縮尺の計算問題が復活しました。縮尺のほか、時差の単純な計算問題も復活する可能性が高いです。

3分野ともワークを解くだけ(=知識の暗記だけ)では身につかない、『考える力』とその考えを『表現する力』を求める出題になると考えます。

1. 総評

問題の構成は昨年とほぼ同じで、問題数も例年通りです。全体的に大きな変更はありませんでしたが、B問題がやや難しめの問題でした。

A問題の平均点 昨年度46.7点→今年度45.6点 ほぼ変わらずです。

B問題の平均点 昨年度65.3点→今年度58.4点 難化したと考えられます。

2. 傾向と来年度に向けての予想・対策

【リスニング】

・第一問

問題1： 短い会話を聞き、質問の内容に合う絵を記号で答える問題

問題2： やや長い英文を聞き、その内容を記したメモの空欄に当てはまる日本語を記述する問題

問題3： やや長い会話を聞き、質問に対する答えを記号で選ぶ問題

出題形式は昨年とほぼ同じでした。

問題1の絵を選ぶ問題、問題2のメモの空欄を日本語で埋める問題は、特に難しくありません。問題3に関しては、ある程度まとまった量の英文の聞き取りに慣れておき、その中から5W1Hを聞き取る練習をしておくとうれしいと思います。

【読解】

・第二問

英語のホームページを完成させる問題(前半)と、それについての対話を完成させる問題(後半)で構成されました。前半は、文章の流れを踏まえてふさわしい語句を選ぶ問題で、基本的な文法力・語彙力が問われました。また、後半はふさわしい語句を記述する問題で、書く力も問われました。

・第三問

スピーチ文の内容の読解問題でした。代名詞の内容を問う問題、語形変化、語句整序などが出題され、読解力に加えて、基本的な文法力が問われました。

・第四問

A問題は、写真部の生徒とALTの会話文の内容を読み取る問題、B問題は、留学生と教師の会話を読み取る問題でした。どちらも対話文の内容を読み取り流れに沿った適切な応答文を英語で構成する力、それを記述する力が問われました。B問題は、1問目以外がすべて記述で、英文を構成する力が特に必要とされました。また、昨年度と同様、どちらも3文程度の英作文問題が出題されました。

読解力だけでなく、英語を話したり書いたりといった、表現力を問う問題が多く出題されていました。また、近年は対話文形式での読解問題が多いことから、より実践的なコミュニケーション能力が問われていると考えます。普段から手を動かして英語を記述すること、声に出して読むことを心がけましょう。英作文は来年度も出題される可能性が高いです。作文が苦手だからといって恐れることはありません。立派な文章を書こうとはせず、自信のある単語や使い慣れた表現を使って、確実に点数がもらえる文が書ければいいのです。これまでに出版されたテーマで英作文の練習をし、先生に添削してもらおうとよいと思います。

<平成24年度入試にむけて>

過去の入試問題の傾向の一つとして、数学以外の全教科で論述問題が複数出題されていることが挙げられます。そして今後、学習指導要領が知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力などの育成を重視するようになっていくこともあり、来年度も多く出題されることが予想されます。単なる暗記ではなく、資料を読み取ったり、要点の把握をおこなったりしたうえで自分の見解をまとめることがかなり重要となる出題形式で、付け焼刃では対応できない、長期的に対策が必要である問題といっても過言ではありません。そこで、各教科の論述問題に関して内容と対策を挙げていきたいと思います。

<<実際に出題された問題>>

国語：日本人は、自然の美をどのように味わってきましたか。前の文章中で述べられている日本人の自然観を踏まえて、**50字以内**で説明しなさい。(22年 第二問(6))

→ポイント：この文章では具体例がいくつも挙げられており、その具体例の前後に何度も登場するキーワードがあります。そのキーワードに着目してまとめると上手く書くことができます。

※200字作文が毎年出題されているほか、見落としがちな「話す・聞く」の分野の出題がみられます。どうしても国語の受験対策は評論文と物語の読解、漢字がメインになりがちなので、会話文を読んで「この話のポイントは何か」「伝えたいことは何か」をまとめる練習も必要です。日ごろから会話の中で心掛けてみるのも良いかと思います。

理科：植物から生成されるアルコールは大気中の二酸化炭素量に影響を及ぼさないと考えられるが、そう考えることができる理由を説明しなさい。(22年 第四問 2(4)より一部抜粋)

→ポイント：一見難しそうな問題ではありますが、「植物」「二酸化炭素」というキーワードから「光合成」を思い出せるかどうかにかかっている問題です。

※各実験・観察の過程を改めて確認し、「どうしてこの操作をするのか」「この結果からわかることは何か」を確実に答えられるようにしておきましょう。また、実験器具の使用法や現象の起こる理由をまとめてみましょう。

社会：消費者が消費社会の主権者であるためには、行政が消費者を保護するだけでなく、私たち消費者にどのような行動が求められるか。**資料C・Dを参考にして**、具体的に述べなさい。

(22年 第三問 2(3))

→ポイント：資料Cはケネディが示した消費者の4大権利(安全である権利、知る権利、選ぶ権利、意見を反映させる権利)、資料Dは商品に貼られている「!警告」の注意書きラベルです。ここから、消費者は受け身だけでなく積極的に情報を選択していくことが求められているということに着目してまとめます。

※地理・歴史・公民いずれも、ものごとの起こる過程や、起こる理由・作られている理由などをはっきりさせておくことが大事です。また、資料集の資料に関する説明文には積極的に目を通しておきましょう。

英語：選択問題A/Bともに、英文の質問に沿うように**3文以上で自分の考えをまとめる問題**が出題されてきました。(22年 第五問)

※自分の書ける内容の文を、とにかく平易な文で書くのが重要です。複雑な文法を使うより、自分がどう考えているのか？を上手に表現することを重視しましょう。

では実際、どのように対策するのが良いのでしょうか。今日から始められる方法をご紹介しますので、是非日々の勉強に取り入れてほしいと思います。

・新聞を読み、気になった記事の要点をまとめる

→新聞を読むことは時事問題を捉えることにも繋がるので、お勧めいたします。更に、文章を書く練習として、例えば50字以内など限られた字数で、その記事が伝えたいことを要約する練習をしてみましょう。記事を切り抜いてノートに貼り、よく出てくる言葉にマーカーでラインを引いたり、話題が転換する部分や理由が述べられているところに印をつけたりしてみると、やりやすくなるかと思います。これは普段の国語の勉強にも繋がることなので、評論文を読むときには是非取り入れてみてください。

・「何故こうなったのか？」を日ごろから考える

→理科や社会の記述問題は知識の暗記だけでは絶対に書ききることができません。理科や社会は前述の通り、事象に関する理由の説明が多く出題されています。ですので、実験の操作の理由やその現象が起こる理由などを考えながら学習に取り掛かるようにしてみましょう。また、多くの事象を関連付けて覚えることで、単なる暗記では覚えにくい物事がかなり覚えやすくなるかと思います。

記述問題に慣れるには、とにかく何度も書いてみるのが重要です。記述問題というだけで毛嫌いせず、書く練習を重ねてほしいと思います。